

■水稲 無人ヘリコプター散布用の殺虫剤・殺菌剤

区分		毒性	予防／治療	系統名	薬 剤 名	希釈倍率	希釈液800mlあたり使用薬量(10a)	使用時期(収穫前日数)
いもち病・紋枯病 カメムシ混合剤	発生時(臨機対応)	－	予防	QoI ピレスロイド*	アミスタートレボン SE	8倍	100ml	14日前まで
	穂揃期まで	－	予防	抗生物質・ MBI-R・ ピレスロイド*	ダブルカットトレボンフロアブル	8倍	100ml	穂揃期まで
いもち病・カメムシ混合剤	穂揃期以降	－	予	MBI-R・ ネオニコチノイド*	ビームエイトスタークルゾル	8倍	100ml	7日前まで
	穂揃期まで	－	予防	抗生物質・ MBI-R	ダブルカットフロアブル	8倍	100ml	穂揃期まで
紋枯病	発生時(臨機対応)	－	予防	抗生物質	バリダシンエアー	8倍	100ml	14日前まで
カメムシ	6／中旬～7／上旬(ドロオイ)	－	－	ピレスロイド*	トレボンエアー	8倍	100ml	14日前まで
	7／下旬～9／上旬(カメムシ)	－	－	ネオニコチノイド*	ダントツ EX フロアブル	24～36倍	22～33ml	7日前まで
		－	－	ネオニコチノイド*	スタークル液剤 10	8倍	100ml	7日前まで

(参考) 無人ヘリ希釈倍率表(希釈調製溶液量 8L当り)

倍率	薬剤量(L)	水量(L)	合計(L)
4	2.00	6.00	8.00
5	1.60	6.40	8.00
6	1.33	6.67	8.00
7	1.14	6.86	8.00
8	1.00	7.00	8.00
10	0.80	7.20	8.00

希釈調製例

〈事例1〉

A農薬の薬剤量＝8L÷8倍＝1.00L(①)

水量＝8L－1.00L(薬剤量:①)＝7.00L

〈事例2〉

B農薬の薬剤量＝8L÷8倍＝1.00L(②)

C農薬の薬剤量＝8L÷5倍＝1.60L(③)

水量＝8L－1.00L(B薬剤量:②)－1.60L(C薬剤量:③)＝5.40L

回数 以内	適用病害虫									防 除 上 の 注 意 事 項
	いもち病	紋枯病	カメムシ類	ウンカ類	ゾイウムシズ	オイネムドシロ	ハイモグリバエ	ニカメイガ	コフタバオガビ	
3	●	●	●	●						・病斑が上位葉しようまでに及ぶような水田では出穂期頃に 散布する
2	●		●	●						・穂揃期とは、圃場全体で見て、有効分げつの80～90%以上が 出穂した日である ・カスガマイシンの総使用回数が2回以内であるため、これを含むダブルカット混合剤やカスミン剤は、あわせて2回以内までしか使用できないので注意する ・自動車などの塗装に被害を生ずる恐れがあるので、飛散しない様、注意する ・小麦など周辺作物への飛散に注意すること
3	●		●	●						・自動車などの塗装に被害を生ずる恐れがあるので、飛散しない様、注意する
2	●									・穂揃期とは、圃場全体で見て、有効分げつの90%以上が 出穂した日である ・カスガマイシンの総使用回数が2回以内であるため、これを含むカスミン剤は、あわせて2回以内までしか使用できないので注意する ・自動車などの塗装に被害を生ずる恐れがあるので、飛散しない様、注意する ・小麦など周辺作物への飛散に注意すること
5		●								・病斑が上位葉しようまでに及ぶような水田では出穂期頃に 散布する
3			●	●					●	・自動車などの塗装に被害を生ずる恐れがあるので、飛散しない様、注意する ・カメムシ類の生息する畦畔等も防除する ・カメムシ類の防除は、出穂期と7日後の2回を基幹として 行い、3回目以降については、発生動向に応じて実施する ・スタークル液剤10 1,000倍液またはキラップフロアブル1,000～2,000倍液またはエクシードフロアブル2,000倍液を使用する場合、基幹防除を出穂7～10日後の1回散布に省略できる。
3			● 24倍	● 24倍		● 36倍				
3			●	●						

(参考)各薬剤の特性

	効果の発現		使用回数	収穫前日数	備考
	予防的	治療的			
カスミン		●	2回まで	穂揃期まで	抗生物質
ビーム	●		3回まで	収穫7日前まで	メラニン生合成阻害
(混)ダブルカット	●	●	2回まで	穂揃期まで	カスミン+ビームの混合剤
(混)ブラシン	●	●	2回まで	収穫7日前まで	フェリムゾン+ラブサイドの混合剤
コラトップ	●		2回まで	出穂5日前まで	メラニン生合成阻害
オリゼメート	●		2回まで	収穫14日前まで	抵抗性誘導